

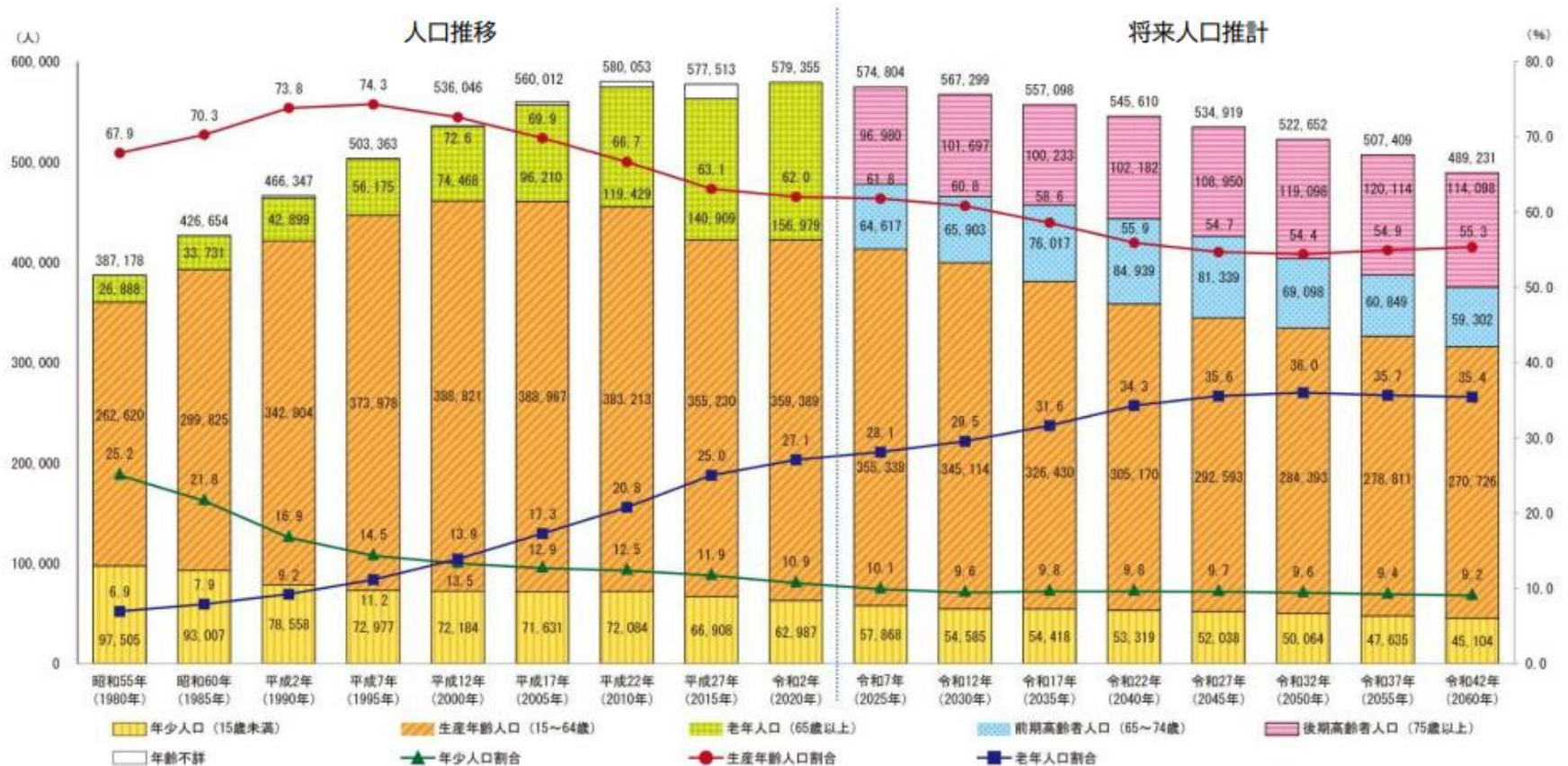
資料2

第4期八王子市地域福祉計画 中間見直しに向けて

令和8年（2026年）4月16日
高齢者福祉専門分科会
福祉部福祉政策課

八王子市の人口推移 (少子高齢化)

将来人口については、年少人口、生産年齢人口は令和42年(2060年)にかけて減少する一方で、老年人口は令和27年(2045年)にかけて増加し、その後減少に転じると推計

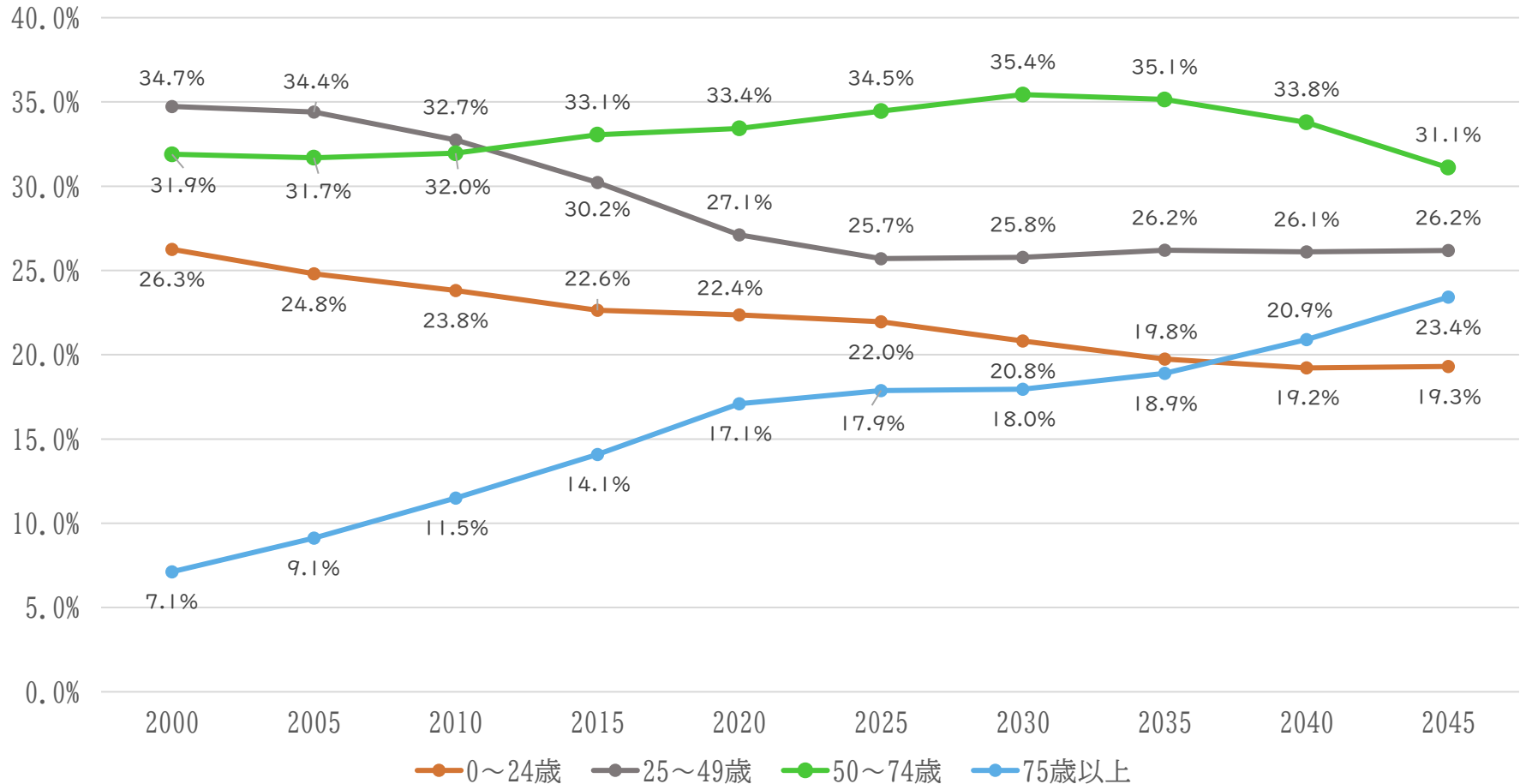


※人口推移は国勢調査による実績値です。令和2年(2020年)の人口内訳は年齢不詳人口をあん分により補完した人口になります。

※人口割合の数値は、年齢不詳を除いて算出しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

※「八王子未来ビジョン2040」人口推計より抜粋

50~74歳で区切った場合の年齢区分別人口構成の割合推移 (八王子市の人口推計から)



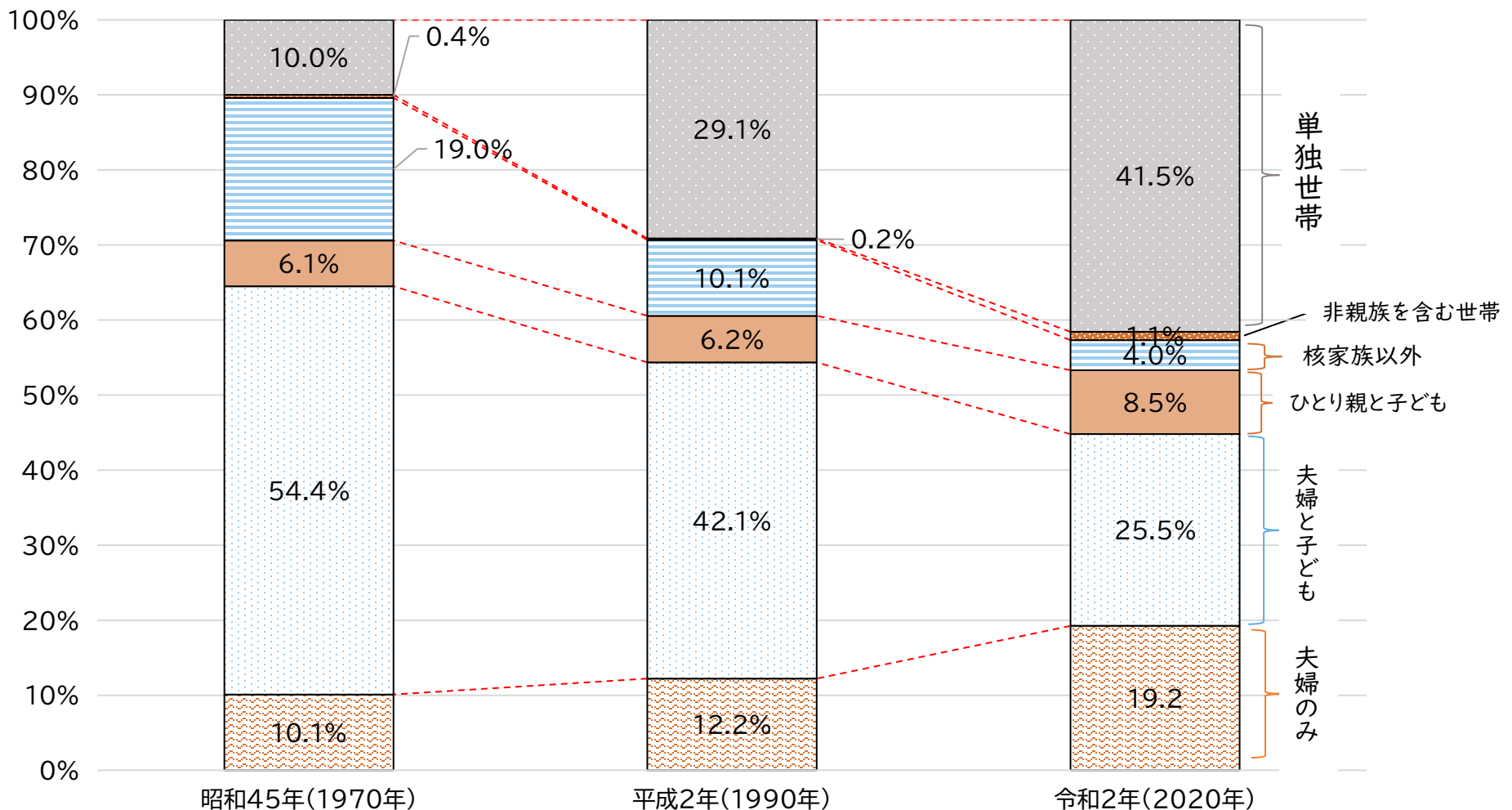
【健康づくりを起点とする予防型の事業運営にシフトする理由】

74歳までを生産年齢ととらえると、50~74歳までの比率はあまり下がらない

→ 消費者だった高齢者が生産者になれる仕組み(生産年齢人口を低下させない)

世帯構成の変化

令和2年度国勢調査をもとに作成



単独世帯
 非親族を含む世帯
 核家族以外の世帯
 ひとり親と子から成る世帯
 夫婦と子供から成る世帯
 夫婦のみの世帯

社会構造の変化に伴う新たな課題

背景

社会構造の変化（単身世帯の増加、働き方の多様化、インターネットの普及など）により、家族や地域、会社などにおける人との「つながり」が薄くなり、誰もが孤独・孤立状態に陥りやすい状況になっている。

会社とのつながり

雇用の保障や
手厚い福利厚生

働き方の多様化
ワーキングプアの増加
企業福祉の縮小

地域とのつながり

地域の互助組織や
支えあい

行政の取り組みが重要

過疎化や高齢化
地域組織の衰退

家族とのつながり

家族や親族などによる援助

少子高齢化
単身世帯の増加

加えて、コロナ禍により社会環境が変化し、孤独・孤立の問題が顕在化・深刻化

直接・対面での
コミュニケーション
の減少

生活困窮をはじめとした
不安・悩みの表面化

自殺者数の11年
ぶりの対前年比増

DV相談件数増
児童虐待相談対応件数増
不登校児童生徒数増

はちまるサポート(八王子まるごとサポートセンター)

“相談難民”を生まないための「福祉のよろず相談所」

支援の狭間に落ち込む生活課題や、複雑化・複合化した問題の相談を受け、状況整理しながら適切なサービスや支援機関に**つなげる**、福祉の総合相談窓口。

(1) 運営日時

月～土曜日(祝日、年末年始を除く) 9時から17時

(2) 運営体制

コミュニティ・ソーシャルワーカー(福祉の専門職) 2～3名

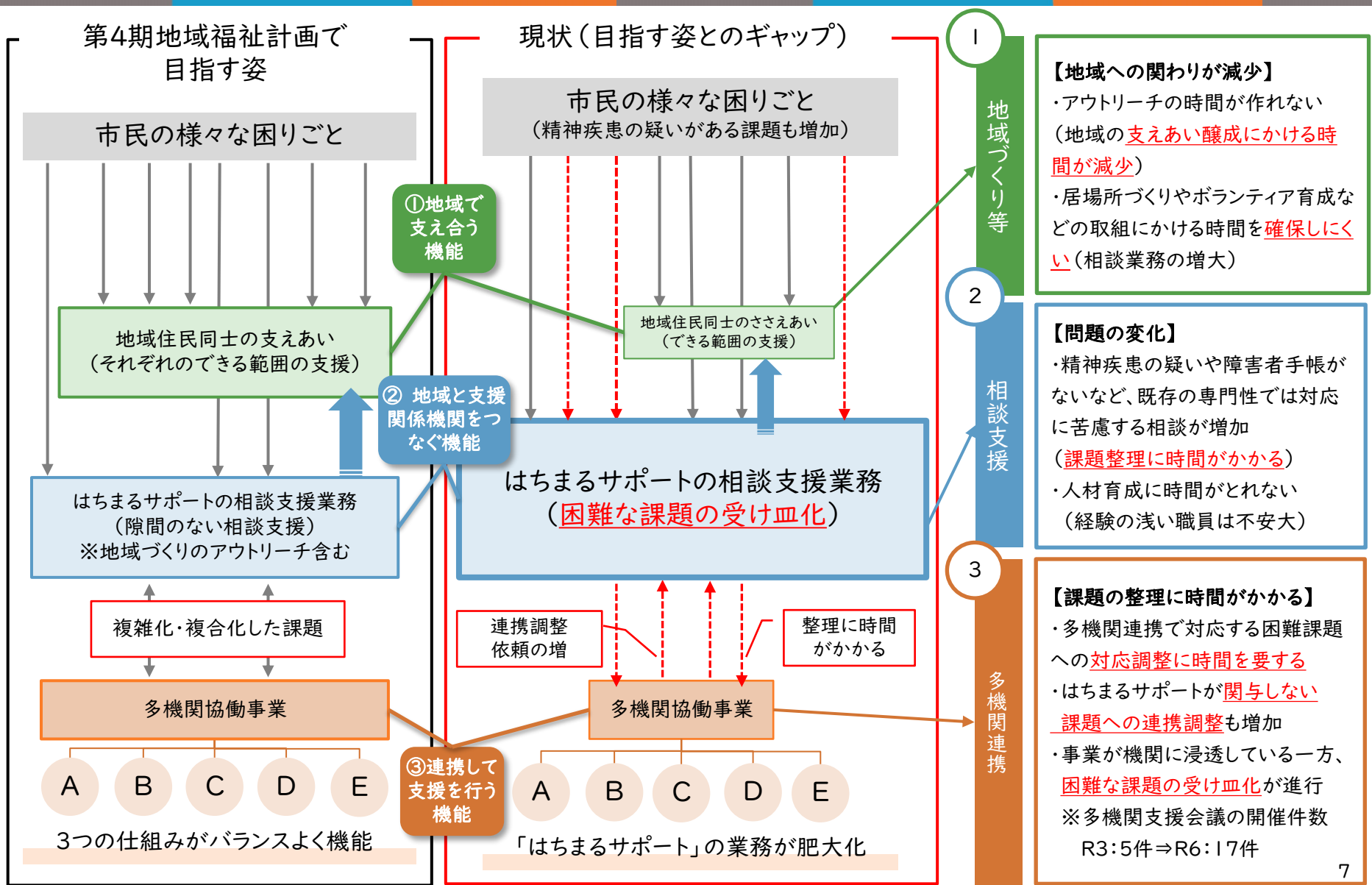
(3) 機能

- ① **相談支援**機能(包括的相談支援)
- ② 課題を抱えている方等への継続的な**訪問支援(アウトリーチ支援)**
- ③ 課題を抱えている方等を地域や社会とつなぐための交流や社会**参加の支援**
- ④ 地域活動の充実、居場所や交流機会等を確保する**地域づくりの支援**

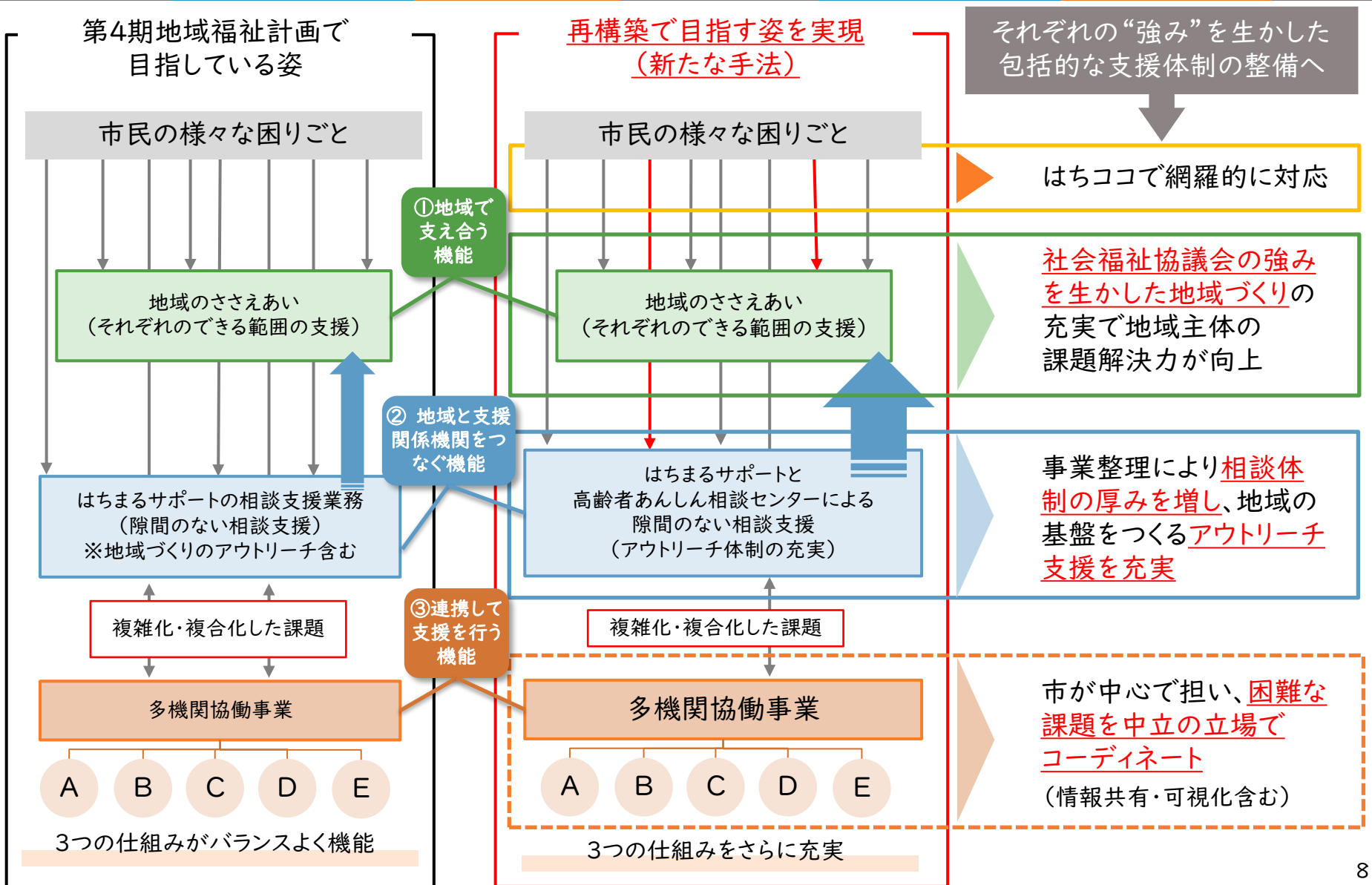
※ 八王子市社会福祉協議会への委託により実施



はちまるサポートの運営課題

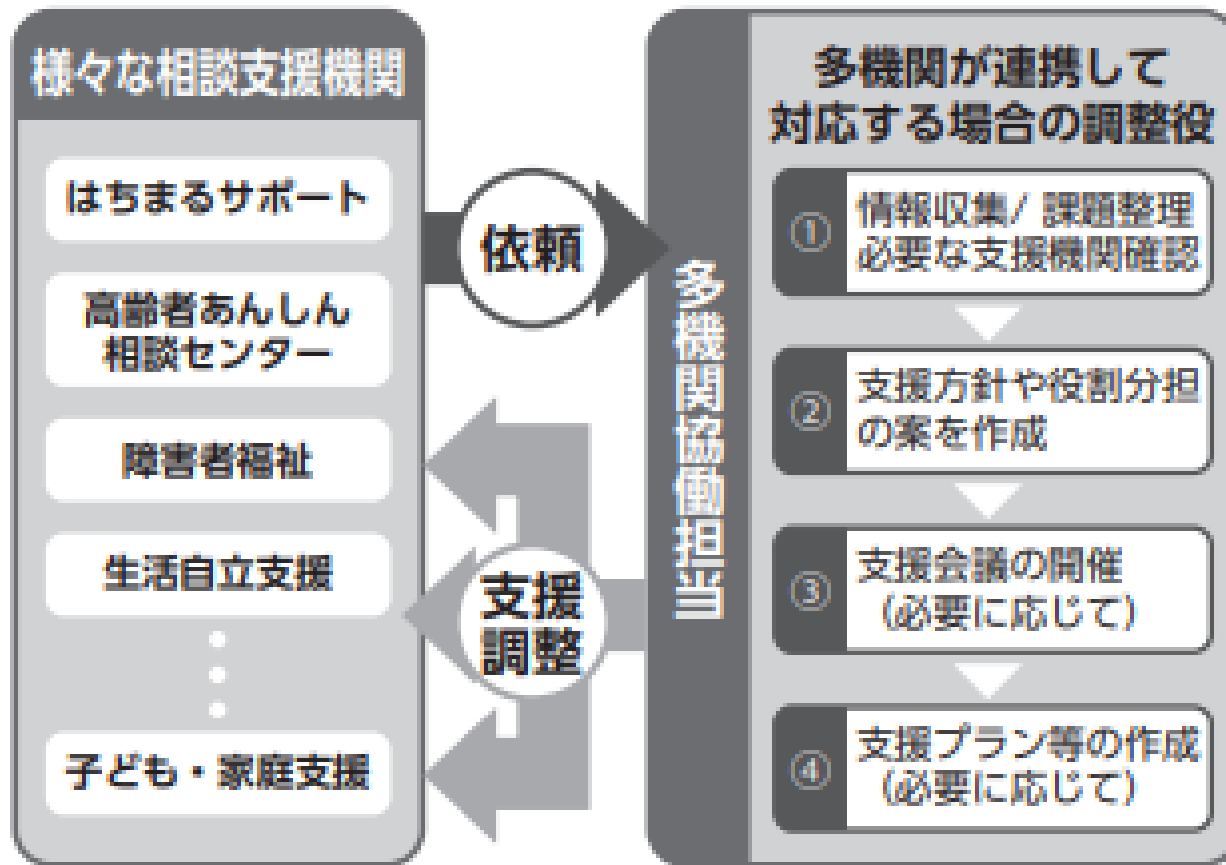


新たな手法で進める重層的な支援体制整備



新たな手法で進める重層的な支援体制整備

【多機関連携による支援】



「多機関協働担当」

=はちまるサポート

「支援調整」の場

=支援会議

令和7年度まで

はちまるが支援会議を開催

令和8年度から

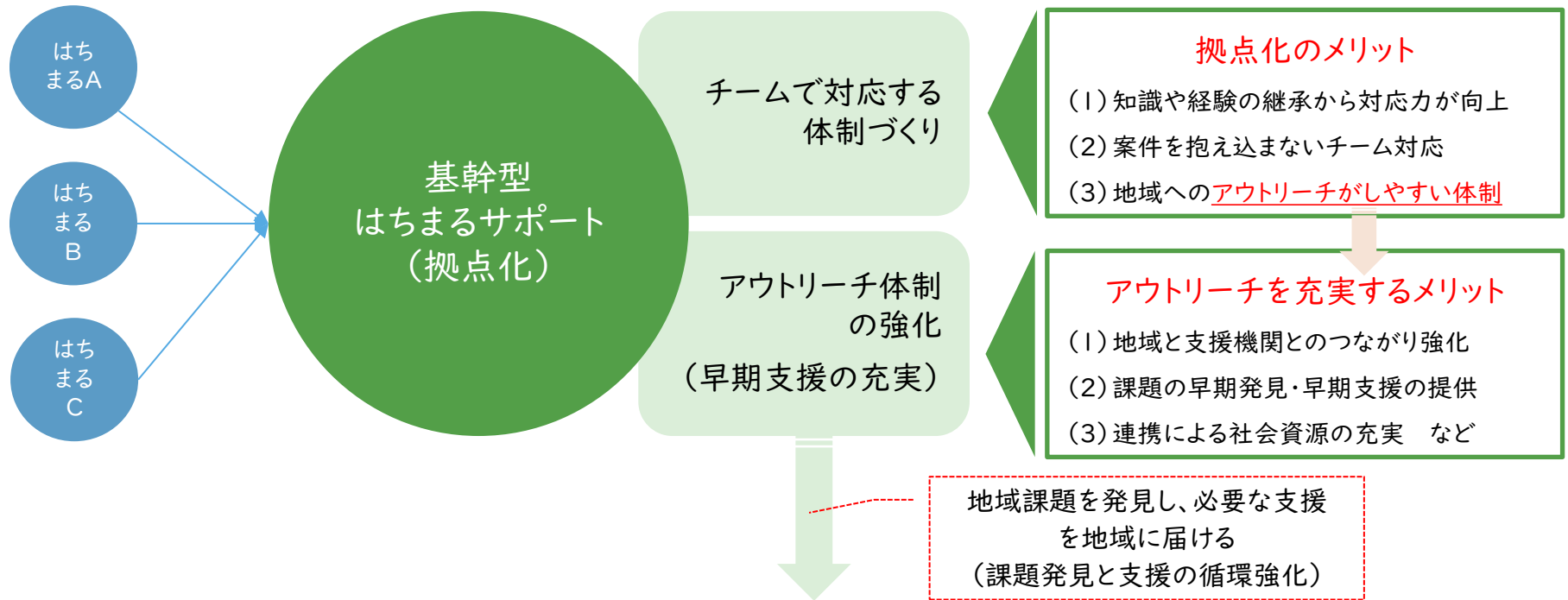
市が支援会議を開催
(はちまるは運営補助)

社協のリソースを地域づくりと
相談体制に集中

はちまるサポートの段階的な拠点化による支援体制の強化 ～基幹型はちまるサポートの拠点化～

市内13か所に設置した「はちまるサポート」を6か所（基本計画に定める6地域）へ
⇒拠点化することにより、専門職がチームで対応できる体制をつくるとともに、地域へのアウトリーチを中心とした能動的な活動を充実する。

（社協の強みを生かした地域福祉の推進を図る再構築）

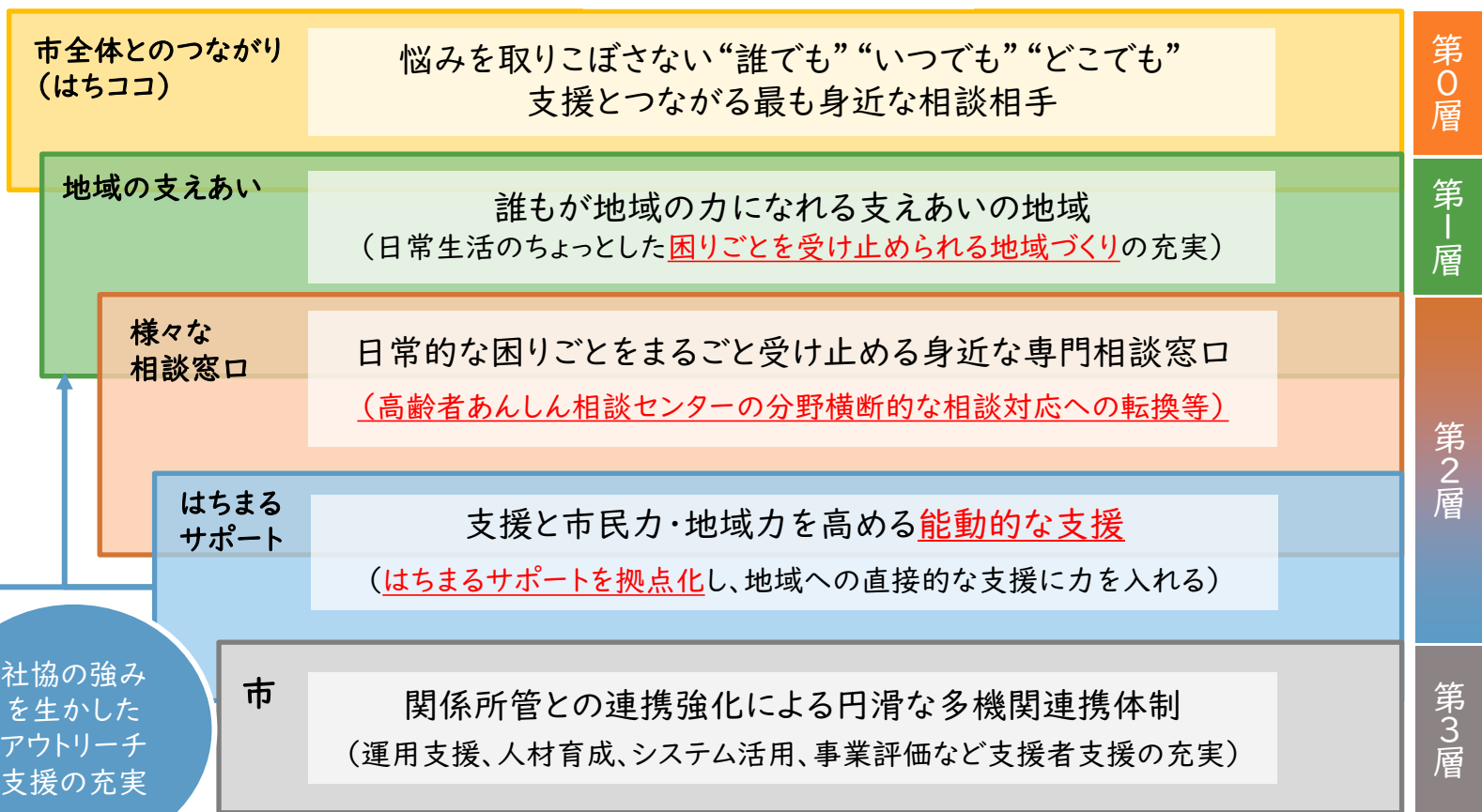


社会福祉協議会の強みを生かした“つながり”づくり

“課題の種”を発見するための地域活動支援や居場所づくり等、地域との顔の見える関係づくりを充実
⇒ 結果的に、はちまるサポートの認知度が向上し、課題の早期発見、早期支援につながる

見直しのコンセプト(案)

～階層構造化による包括的な支援体制の充実～



階層構造で様々な生活課題に対応

”つながりやすく“安心して暮らし続けられるまちへ

重なりあい、広がる、「包括的な支援体制」づくりの推進

社協の強みを生かしたアウトリーチ支援の充実